造影ＣＴ検査についての説明書（紹介医療機関様用）

➤検査の必要性について

ヨードを含む造影剤を静脈内に注入しながら行う検査です。造影剤の使用により病変の存在や性状などがより詳しく描出され、診断に大変有用となります。

➤造影検査の副作用

　　検査に使用する造影剤は、次の副作用を引き起こす場合があります。

・軽症：吐気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹・咳など。（3～5%）

・重症：呼吸困難・血圧低下・意識障害・腎不全など。（0.01～0.02%）

・死に繋がるような重篤な副作用。（0.005～0.01%）

➤造影剤使用に関する注意事項

（1）造影剤使用の禁忌（造影剤を使用してはならない場合）

・ヨードまたはヨード造影剤に過敏症がある方

（2）造影剤使用の原則禁忌（造影剤を使用しない事を原則とする）

・気管支喘息の方

・重篤な腎障害・重篤な心障害のある方

・副腎の褐色細胞腫のある方

・マクログロブリン血症や多発性骨髄腫のある方

※これらの方に、それでも造影剤検査が必要と思われる場合には、小牧市民病院の各診療科にご紹介ください。各診療科医師と放射線科医師との協議の上で造影剤使用の適否を判断させていただきます。

（3）造影剤の慎重投与：以下の場合には慎重に投与する必要があります。

・アレルギー性鼻炎・発疹、じんましんなど、アレルギーを起こしやすい体質を有する患者

・両親・兄弟が、以下の疾患を有する患者

（気管支喘息・アレルギー性鼻炎・発疹・じんましんなど、アレルギー）

・薬剤過敏症の既往歴のある患者

・経口糖尿病薬（ビグアナイド系：グリコラン、メルビン、メデットなど）を服用中の方はお申し出ください。服用中で造影剤を使用して検査を行う場合、腎機能が低下する恐れがあるため、検査当日を挟んで前後2日間は服用休止となりますので、指示に従って下さい。

（4）その他

　　　　　・検査担当者の判断により、造影剤を使用せずに検査を終了する場合があります。

➤検査中の注意事項

　　・造影剤注入中、体が熱く感じることがありますが、ほぼ全員に起こる症状で心配ありません。造影剤による副作用は検査中あるいは検査直後に起こることが多いので、造影剤注入時や注入後に息苦しさ、気持ち悪さ等の異常を感じましたら、検査中でもためらわず声やジェスチャーでお知らせいただくようお願いしています。

　　・症状によっては副作用を改善させる処置が必要なことがあります。また、重症例の場合は、救命措置などが必要な場合もあります。当院では重症軽症問わずいつでも対処ができるよう準備を整えております。

　・造影剤を勢いよく注入するため、血管外に造影剤が漏れる場合があります。この場合には、注射部位が腫れて痛みを伴うこともあります。一般的には時間が経てば吸収　されるので心配ありません。非常に稀ですが、漏れた量が多い場合には切開治療を要する場合もあります。

➤検査後の注意事項

　　　・ごくまれに、数時間から数日後に遅発性の副作用が起こる場合があります。症状は発疹やむくみ、かゆみ、吐き気、発熱、頭痛、気分不良などです。このようなことがありましたらすぐに、当院救急科にご連絡いただいております。

　　　・検査終了後の生活制限はありませんので、食事や入浴は普段同様となります。

➤費用について

・撮影方法によって異なりますが、３割負担の方で6，０００円～１３，０００円になります。